

だっこするよ

2023年5月



社会福祉法人茂原高師保育園
園長 奥戸 昌子

日本国憲法＝個の尊厳＝保育

五月、風薫り山萌える大好きな季節です。そして、連休へと、お仕事に復帰された皆さんも少し一息ついてご家族でゆっくりとお過ごしください。

先日、どんどんさん（5歳児）とぐんぐんさん（4歳児）は、今年も赤羽自然観察公園の田んぼでどろんこ遊びを楽しみ…もう田んぼに住んでいる妖精？と思うくらい泥と融合していました。瞳はキラキラ、笑顔満開、思う存分楽しみました。

赤羽の四季折々の美しい自然に触れ、戸外で思いっきり遊び、虫や草花、社会事象、そして気象も…取り巻く全てに出会い、心豊かに健康に育てて参ります。

5月、「憲法記念日」「みどりの日」そして子どもたちの健やかな成長を祝う「こどもの日」を迎えます。学生時代、初めて日本国憲法を読んで感動しました。

前文には、「国家は国民の幸福のためにのみ存在するという国民主権」「私たちが幸福になるための平和主義、武器を行使しない」として、「国民は、個人として最も尊い存在である」という基本的人権の尊重」が書かれています。

基本的人権の尊重とは、保育そのものです。一人ひとりがもっている生命・自由・幸福追求の権利から、モノの取り合いの喧嘩になるなど、集団生活ではトラブルも起こります。でも、そこでどうするかを話し合い、自分の気持ちを伝え合い、徐々に相手の気持ちも受け止められるようになります。人間はもともと群れで育つ動物、子ども同士の社会の中

で、日々、体験から学び合っています。一人ひとりの心の成長を見守り、サポートをしていきます。

子どもと子ども、子どもと大人、少しずつ安心感や信頼感が生まれてきています。関係がしっかりとつながったときに「僕は大丈夫」「今度はこうしよう」と自分から負の気持ちを乗り越えていくと信じています。

コダーイ芸術教育研究所（ハンガリー保育教育）を創立された故羽仁協子先生（祖母は自由学園創設者）の講演会に参加したときのメモ書きです

「教育の現場で子どもたちの不満が多い。一斉保育をやめよう。子どもの困った顔ばかり目立つようになり、自分の価値が分からなくなっている。大人は、揃うことばかりに目をやる。個人より国家の目的であった戦争のため先ず「集団」として考えるようになった。「個」の幸せから成る「自立した集団」を創ろう。子どもを横並びにして枠にはめ込まないと心配する保育者や保護者が多い。子ども一人一人が本来持っている「力」を知らないからだ。

自発性が抑えられれば子どもの価値は無くなる。子どもが自分の人生を切り開く「生きる力」をどう育てるのか？必要な条件や環境を整えて、子どもが自発的に遊ぶ、食べる、寝る、自発性を大切にしたい。子どもというものは一斉保育で育つのではない。幼児期の我がままとは違う。子どもは「自分」を見て欲しいと思っている。「子どもを知る」こと「子どもの心」を知らなければならない。何をもってその子の成長と言えるのか、万遍なく知識を付けることでなく「自分」で能動的に活動する力を育てて欲しい。子どもの行為をどう見るか、子どもの見方を学びなさい。それが保育の質になる。」

5月、憲法記念日になると子どもの人権に厳しかった故羽仁先生の言葉を思い出します。一斉保育、同学年保育が当たり前の20年前に、自発性を大切に、子どもの見方を学びなさいと教えていただきました。日々、全職員で声を掛け合い、しっかりと向き合っています。

【お願い】子どもたちを真ん中に、どの子も我が子、危険な行為を見かけたら「危ないよ」「走らないよ」と声掛けをお願いします。親だけでは止められません。皆が皆の親として、いつでも、どこでも、どの子にも、お互い様の愛情で育てていきましょう。5月は、2歳さんから親子ピクニックがあります。私も楽しみです。写真 ぐんぐんさんの泥んこ遊びの様子です